

ドライステート

禁酒国を俗に世に「ドライステート」と呼ぶ。戒律によりアルコールを禁じているイスラム圏諸国がほとんどである。街でアルコールを目にすることはまずない。暑く、乾燥したアラブでは冷たいビールが無性に恋しくなる。観光客はただ黙って耐えるしかない。だが、アラビアンナイトの末裔の酒好きがアルコールを我慢できようはずがない？ アラブでも「蛇の道は蛇」で地下流通ルートがあって、アラブの呑み助もこっそり家庭で嗜んでいるとか。

アメリカでもモルモン教徒が住民の90%を占めるユタ州では、昔からほとんどの家庭やレストランが禁酒を頑なに守っている。それどころか、喫煙も禁止され、強い刺激性のコーヒーまでご法度とある。さすがに近年は、外国人観光客が宿泊するホテル等では、禁酒法を押し付けるわけにはいかなくなり、遠慮がちではあるが、許可を得てアルコールを提供するようになった。ところが、今日でも毎日飲酒が許されるわけではなく、祭日とか、特別な記念日になると有無を言わず禁酒とされ、うっかりするとホテルでもアルコールが飲めなくなる。

かつてソルトレーク市に滞在中、偶々アメリカ大統領選投票日にぶつかった。投票日当日は州法では禁酒日とされ、飲んではいけない、飲ましてはいけない一日となっている。ホテルでは全宿泊客に対し前日、投票日当日ホテル内のレストランでアルコールを販売しないことを電話内線と告知板により伝える。親切なホテルマンは、念のため前日買いだめをしておくことまでささやいてくれ、取りあえず酒飲みにとってアルコールが飲めないということはない。

しかし、実際に酒を飲めることと、酒を飲んではいけないことの分別ぐらい知っておいてほしいというのが敬虔なモルモン教徒の声で、つい羽目を外して禁酒法下で堂々酒を飲んでトラブルに巻き込まれたという話もしばしば耳にする。

(近藤)